

段々畑

愛媛県南部の南予地域は、段々畑で有名です。段々畑はこの山岳地域に不足していた耕作可能な土地を補うため、江戸時代（1603～1868 年）に作られました。畑は最初、サツマイモの栽培に使われていましたが、作物の価格が下がると多くの畑が牧草地に変えられるか、自然に戻されてしまいました。しかし一部の地域ではサツマイモがまず桑の木に置き換えられてカイコの飼育に適応し、その後 1950 年台後半には柑橘類の木が植えられるようになりました。南予に残っている段々畑は、今ではミカン（タンジエリン）のオーガニック栽培で最もよく知られています。

[キャプション]

遊子水荷浦（宇和島）の段々畑。最初はサツマイモ栽培のために作られましたが、後に養蚕やジャガイモ栽培用に使われました。

狩浜（西予）の段々畑。サツマイモ栽培のために作られましたが、後に桑の木（カイコ養殖用）や柑橘類の果樹栽培に使われました。

法華津峠（西予および宇和島）で育つ柑橘類の木。法華津峠展望台では段々畑と遠くの海を一望する景色が見られます。

石垣

平坦な土地が不足していたため、頑丈な石垣を作る高い需要がありました。それらの石垣は、山の斜面に作られた段々畑と居住用の土地の両方を支えるのに使われました。

[キャプション]

・沖の島（宿毛）の「干棚」

これらのデッキのようなテラスは道路の上に作られ、石垣で補強されています。このテラスは魚や野菜から洗濯物まで、あらゆるものを干すのに使われます。

・外泊（愛南）の石垣

この村の石垣は家の周りに高く積み上げられ、台風やその他の極端な天候から家を守っています。